

## 名古屋ハリストス正教会のレポート

劉永強

### 日露戦争と正教会

ニコライ・カサートキンによって伝道されたロシア正教会は、日露戦争中ロシアと一体と見なされた。それゆえ、日露関係が悪くなると、正教徒はロシアのスパイとみなされ迫害をうけた。しかし、ニコライは帰国の薦めを断り、信徒とともに難局を乗り越えようとする。

### 名古屋会管轄司祭柴山準行神父

日露戦争当時、名古屋正教会を管轄していたのは、ペトル柴山準行神父（1857—1937年）である。柴山神父は尾張藩の土族出身で、教師をした後、東京の神学校に通って、伝教者となり、1898年に地元信徒の要請によって司祭となった。

柴山神父の総括によれば、はじめ捕虜慰問活動は理解されなかったが、キリスト教徒としての愛と真心によって徐々に軍や警察関係者からの理解も得られ、ロシア人捕虜からは敬愛と感謝、正教という共通の信仰が日露の人々の交流を可能にしたのである。